
リリカルでマジカルな二度めの人生

ましろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルでマジカルな二度めの人生

【Nコード】

N7343L

【作者名】

ましろ

【あらすじ】

くだらない死に方をした少年が特殊な能力をもらい魔法の世界へ！

あれ…？でもなんか…使えねえ！？

ぶろろーぐ（前書き）

初めての執筆です

作者の妄想を形にしていくので、温かく見守って欲しいです
m (_ _) m

ぶろろーぐ

「大ピンチだ……………」

俺は今、異世界モノのテンプレっぽく狼のような三眼の獣と対峙している…………

素手で

何故だ？

何故こうなった？

よし、ここまでの流れを簡単に思い返してみよう……………

神様に会う

←

異世界

←

襲われる

……………端折りすぎたか？

とりあえずもう少し詳しく思い出そう。

俺は神刈かがり 紫苑しおん

公立高校に入学したばかりの16才だ。

親は俺が小さい頃に事故で死んでしまったので一人暮らしだ。

今日もいつものように学校に行き、授業を受けて、いつものように家に向かった。

そして家に向かう道で、やはりテンプレっぽく車にはねられた。

それは良い……イヤ、まあ良くは無いけど、スルーしても良い。

ただ……

『理由が、落ちていた十円玉を拾おうとして道に飛び出したからってのがなあ……』

薄れ行く意識の中

『ああ……せめて誰かを助けて死ぬ、なら救いがあったのに……俺の命、十円かよ……』

なんて考えながら眠りに落ちた。

??「……い！」

『なんだ……?』

誰かの声で闇に沈んだハズの意識が浮かび上がった

??「起……ろ！」

『あれ……?俺……死んだんじゃ?』

まだ意識がはつきりしておらず、状況もわからない。

??「チッ」

『ん…？今、舌打ちが…』
と思った瞬間に

??「フンッ！」気合いとともにかかと落としが繰り出された……
俺の腹に……！！

ドゴン

と音をたてながら俺に突き刺さった衝撃に、意識がグイッと引き戻される。

「ゴフッ!？」

??「起きたか……?」

俺は大ダメージを受けた腹を庇いながらなんとか抗議の言葉を発した

「……バカか…お前……死ぬかと……思ったわ……!」

??「ハハハ……もう死んでるのだからそんな心配いらんだろ」

しばらく悶絶した後、ようやくかかと落としをキメた人物に目をむけた

何かよくわからないモノが居た……

「なんだ……オマエ……!？」

それは男にも女にも見え、老人にも子供にも見え、人にも獣にも見えるナニ力だった

ただの光なのにとありとあらゆるモノに感じられた

??「俺か？俺は■ ■ ■だよ」

「は？なんだって？」

何故か一部だけ、聞こえたのに理解出来なかった

??「あゝ……たかがヒトじゃあ理解できねえか……

そうだな……神、イヤ……世界ってカンジだな」

「はあ？」

やっぱり理解不能だった

??「まあ、理解不能なほどに大きい存在だよ

そうだな……シンとでも呼べ」

コイツ頭沸いてるんじゃないか？

と思うような言葉だが、何故か否定する気にもバカにする気にもならなかった

「っていうか、此処どこだよ？」

周りには何も無い空間が広がっていた

シン「此処は■ ■ ■つつつてもわからんか……あゝ……なんつーか……狭間？現世うつしよと幽世かくりよの境目？みたいな？」

「みたいになって……」

シン「うつせーなあ…とにかくお前らヒトにはわからないスゲー所だよ」

「へえ」

シン「しかし……たかが十円玉の為に死ぬとはな…なかなか笑えたぞ（笑）」

「笑うなよ……かなり悔やんでるんだから……」
クソツ人生最期にして最大の黒歴史だ……！

シン「さて…そんなスイーツ（笑）な死に方をしたキミに異世界への旅をプレゼントしよう！」

「マジでか!？」

こんなよくわからない場所に連れて来れるんだし、信じても良いだろう

……騙されたとしてもどうせもう死んでるし

シン「マジでだ

それにあたって一つ、願いを聞いてやろう」

「キタコレ!!」

じゃあ、【無限の剣製】が欲しい!!」

シン「別にいいが……あれって、術者の心象風景だから、お前の魂にあの正義の味方見習いのデータを上書きする事になるぞ？」

「???…どゆこと?」

シン「ただ【神刈 紫苑】という名前の【衛宮 士郎】が出来上がる

当然お前の自我も消える」

「なにそれこわい」

シン「だろ？別のにしとけ」

「じゃあ………【王の財宝】は？」

シン「それなら大丈夫だ。同じ能力をもつ物をお前用に創るだけだからな」

「じゃあそれでー!!」

シン「よし、じゃあお前をリリカルでマジカルな世界に送るからな」
」

「エッ?……まじで?異世界ってソコ?」

シン「じゃあ、行つてらっしゃーい」

俺の足元に大きな穴があいた!?

「テンプレすぎんだろオオオオオオ……!!」

シン「さあ……楽しませてくれよ?」

ぶろろーぐ2（前書き）

だいぶ久しぶりの投稿です

遅くなってゴメンナサイ

m ((m

ぶろろーぐ2

「さて、テンプレっぽく穴に落とされたのに気付いたら森の中とは……
これが神様パワーってヤツか？
あれ？でも鳴海市にこんな密林なくね？」

??『ここはまだリリカルな世界じゃねえよ』

突然頭に誰かの声が響いた。

「?…誰？」

??『シンだ』

念話的なモンで話し掛ける『

「へえ」……って、なんでリリなのじゃないのさ？」

シン『平和に慣れすぎた現代日本の若者が戦い方なんか知るわけないからな、チュートリアルだ』

「は？」

どういう意味……」

やせいの おおかみ？ が とびだした！

「……………」

シン『さあ！レッツファイト！』

おおかみ？「GURUUUUUUU！」

「……………イヤイヤイヤ……………無理じゃね？
もう少し段階踏もうよ！？」

シン『うるせえ

習うより慣れろ』

「慣れる前に死ぬわ！」

シン『大丈夫だ』

「なにが大丈夫なん……」

シン『チュートリアルの間はコンテニュー可能だから（笑）
文字通り【死ぬほど】痛いけどwww』

「全然大丈夫じゃねえーーーー！！」

そうだ！王の財宝あるじゃん！

いけ！【王の財宝】！！」

シーーーン

おおかみ？「GURUAAAAA」

「ガッ……………ゴフッ」

G
A
M
E
O
V
E
R

c
o
n
t
i
n
u
e
?

↓
Y
E
S

N
O

「ぶろろーぐ」の冒頭へと続く

ちゅーとりある1(前書き)

チュートリアルは2話くらいで終わらせたいです
m () m

ちゅーとりある1

当たり前のように2度目の敗北をかました

さて……………

頭のなかでシンに話しかけてみる

『なんで王の財宝が反応しないんだ？』

シン『？？？反応はしてたぞ？』

『何も出てこねーじゃねえか！！』

シン『？？？当たり前だろう？何も入ってないんだから』

『え？』

シン『え？』

『なにそれこわい……………じゃなくて！どついう事だ！？』

シン『王の財宝はあくまでも蔵だからな…英雄王が飛ばしてたのは宝具とは別のただの所有物だ』

『……………つまり俺が持つてるのは』

シン『空っぱの倉庫だなwww』

『……………意味ねえ—————!』

シン『頑張れwww自分の所有物ならいくらでも入るからwww生物はむりだが』『じゃあどうやって戦うんだよ!』

シン『うーん……………気合い?』

『せめてデバイスをくれよ!?!』

シン『……………?……………あ!ああ!デバイスな!しかたないなあ!今用意しよう!』

あれ?なんか焦ってる?『まさか……………忘れてた…のか…?』

シン『まっ!ままままさか!あれだよ、アレ、あの……………ッ!そう!特製だから時間かかったんだよ!』

『……………』

シン『……………ゴメン』

『まあ今回は多めに見よう

で?

どんなデバイスをくれるんだ?』

シン『あ……………

とりあえず、遠距離タイプか近距離タイプかをきめないとなあ』

『基本的には遠距離タイプで、近距離もそこそこって感じがいいな』

シン『理由は？』

『直接格闘とかマジ無理』

シン『うわぁ……………情けねえ……………』

ほっとけ

シン『まあいいや

じゃあそれで創るか……………

ん、完成つと

形は杖だ

Fateのキャスターのヤツっぽく作つたぜ
待機モードは首輪な』

『なんで首輪なんだよ！他の形にしろよ！』

シン『いやぁ……………オレのペット的な意味で

チツ…じゃあフツにネックレスでいいな』

『おう』

シン『じゃ、チュートリアル頑張つて来い！』

『よっしゃあ！いくぜ！』

ちゅーとりある2（前書き）

だいぶ久しぶりの更新……

リアルが忙しすぎる（泣） リア充ではない

かなり薄い内容でスミマセン

m (_ _) m

ちゅーとりある2

おおかみ？「GURUOOOOO」

「さて……この狼もどきの戦いも3度目だが……
デバイスを手に入れた以上簡単にはいかねえぜ………」

おおかみ？と睨み合いながら身構える

シン『ほお……どうするってんだ？』

「フツ………」

30秒持ちこたえてみせる！」

堂々と情けないことを宣言した！

シン『しょばいな………』

「うつせえええー！！」

テメーも言った通り戦い方なんか知らねえんだよお！！
ヤケクソだコラァ！」

シン『まあ…頑張れw

デバイスの名前は【セイファート】だ』

「エターニアかよ………」

っし！セイファート！セットアップ！」

《Standing by》

《Complete》

一瞬光に包まれた後、紫苑はバリアジャケットを纏い、杖を構えていた

イメージ的にはセイバーオルタの装甲を薄くした感じ

「おお……なかなか……」

シン『来るぞ？』

「！-！」

シンの言葉に反応し、杖を構えた瞬間狼もどきが飛びかかった

おおかみ？「GURUAAAAA」

紫苑はそれを杖で受けたが、衝撃で少し退いてしまった

「グッ………！」

狼もどきは一旦距離をとり、再び飛びかかる

「ハアッ！」

紫苑は迎撃しようと杖をふるが……

おおかみ？「GUOOOOAAA」

「ぐあっ！」

容易くよけられ鋭い爪の一撃を食らう

そんなことを繰り返して結局1分後には3度目の敗北を味わっていた。

- - - - -

「オラァ！」

飛びかかってきた狼もどきを杖で叩き落とす

おおかみ？「GYAAAA！」

すかさず突きで喉を潰し、全力で蹴り飛ばす

「ハアッ！」

ドンッ

という鈍い音を立て倒れた狼もどきは動かなくなった

「よっしやあああああ！」

コンテニユー17回目にしてようやく倒したZE

第一部・完！

シン『やつとか……』

まあ、よくやったな』

「ハッハアー！」

一切魔法使ってねえけどなアー！」

シン『魔法^{それ}については海鳴^{あっち}でやっつけW』

「ああ？

なんでだよ？」

シン『そろそろ飽きた

ってかオマエの意見は訊いてないWWW

GO』』

やはり突然足元に穴があいた

「またかああああああA A A A A」

紫苑がそれに飲み込まれたあと穴は消えた

シン『さて…と

オレが手を出すのは此処まで……………

どうなることやら』』

ちゅーとりある2（後書き）

オリ主を誰んちの子にしよう……？

- ・戦闘民族TAKAMACHI
きゅうけつなまもの
- ・吸血生物TSUKIMURA
- ・釘宮もといバニングス
- ・あえての一般家庭

新たな人生のはじまり（前書き）

駄文失礼いたします

m (| |) m

新たな人生のはじまり

やあ！みんなのアイドル紫苑君0オデス キラッ

あまりのキモさに全俺が吐いた

冗談はさておき、俺は今公園のベンチで空を見ている

何を言ってるかわからないって？

よし、現実逃避がてらどうしてこうなったかちょっと整理してみよう………

俺誕生

←

倉庫起動

←

ベンチ

………なに？余計分からなくなった？
よろしい……詳しく思い出そうか………

俺はチュートリアルを終えた後、一般家庭に生まれた。

決して戦闘民族でも吸血生物きゅうけつなまものでもバーニングでもない

そこで俺は、緑葉みどりば 樹いつきというあまり有り難くない名前を授かったが
まあリリカルな魔法についてニヤニヤしながら考えていた。

それと同時に、倉庫を使いこなそう！

という事で倉庫にいろいろなものを出し入れしていた。

どうやら一度自分の手で倉庫に入れないといけないようだった

最速で取り出せば英雄王のように射出出来るようだ。

しかし、ここで問題が発生した！

両親に倉庫からおもちゃを出し入れしているのを見られたのだ

この時俺はオリ主っぽく、

おお！ わがこは すばらしい ちからを もっている！

← さすが わたしたちの むすこね！

← 俺 神童b

と思った

駄菓子菓子

もとい、だがしかし…現実は……

← 何この子、なんか何処からともなくおもちゃ出したんだけど……

← なにそれこわい

← 悪魔の化身説浮上

← ベンチに投棄↑今ここ

さあ…どうしよう……

つていうか0才じゃなにも出来ねえ……

2度目の人生終了のお知らせ？

と、軽く絶望しながら空を眺めていると、突然視界に影が差した
誰かが覗き込んでいるようだ
逆光でよく見えない

??「あれ?こんな所に赤ん坊?」

呟いた後、周りを見回してまた呟いた

??「捨て子みたいだね……よし!ナナが育ててあげる!」

俺を抱き上げながら女性は微笑んだ

どうやらまだ人生終了せずに済みそうだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7343/>

リリカルでマジカルな二度めの人生

2011年10月7日05時00分発行